

評価項目	総評(意見・改善策)
保育目標について	子どもたち一人ひとりに寄り添い、信頼関係を大切にしたい保育を心がけることができた。その中で一人ひとりへの理解を深め、ねらいや目標を明確に持ち、それを保育者間で共有して保育を行うことに関して、保育者間でのコミュニケーションをより意識することができた。そして会議でその内容を深め、より目標を共通理解できるよう努力した。子ども一人ひとりの育ちを大切にしたい保育、育てほしい子どもの姿を考えた保育に関しては、ねらいや目標の設定を更に深めていき、保育者間で共有していくことを引き続きの課題として努力していきたい。
保育について	新型コロナウイルスの影響による活動の制限は継続となったが、その中でも子どもたちが安心してのびのびと過ごせるように、保育者間で話し合いながら保育を行った。給食、午睡時はなるべく間隔をあげ、固定の位置にすることは継続して行った。登園、降園時の対応をエントランスで1組ずつ行うこと、換気の徹底(CO2濃度測定器を導入し、数値をこまめにチェックして換気を行う・壁掛け扇風機を3台導入し、空気の流れを作る)、保育室内のこまめな消毒等、出来る限りの対応を行った。子ども一人ひとりを尊重し、安心、安定した園生活のもと、自らやってみようと思えるようなかわりや主体的に活動できるような保育を心がけた。
行事について	新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、各行事の計画を立てた。特に保護者参加行事については、人数の制限・規模の縮小・体調把握の徹底(37.5度以上の発熱がある場合は参加を控えていただく)・保育室内の消毒作業や換気の徹底・参加する職員の人数を減らす等、出来る限りの対応を行った。その上で子どもたちが楽しめる行事となるよう、職員一同知恵を絞って考え実施した。また、保護者への案内を早めに行い、仕事の調整等がしやすいよう配慮した。
分掌・体制	それぞれが自分の役割を意識し、行動できていた。指示がなくても自ら考えて行動すること、指示を出される前に提案や質問をすることに関しても、それぞれが意識できるようになってきた。保育責任者としては、指示を出すだけでなく、まずは自分で考えてみるができるような関わりをすること、一人ひとりの思いを汲み取ること、出た意見に関してどんな内容であってもそのままにしないことを意識して対応するよう心がけた。
運営	運営責任者との職員面談、年3回の保育責任者との個人面談に加え、年度末に保育責任者と管理責任者による全職員の三者面談を実施。実務面での具体的な提案や職員が普段不安に感じていることをタイムリー、かつ高い精度で吸い上げることがねらい。三者面談は管理責任者も加え面談を行うことで、さらに深く職員を知る機会とすることが目的。また、不定期ではあるが、月例の全体会議の中で「普段の保育」を題材としたミニ研修を実施。年度末の職員研修では虐待を題材とした園内研修を開催。職員の考える力を養うと共に保育の質の向上を目指した。
年齢別・クラス運営	クラス会議は月に2回(月初め・月末)行うことを継続した。月末の会議には、その月の振り返りと次月の目標(クラス全体のこと、個人のこと)を担当中心に話し合った。来年度は、その内容を会議記録だけではなく全体会議の場で担任から伝え、全職員で共有していきたい。クラス運営で困ったことがあった時に、それを発信し、相談・解決していく姿勢を常にもつこと、担任が抱え込まないように責任者は十分なフォロー体制を整えることも引き続きの課題としていきたい。
保健・安全指導	CO2計測器を保育室に固定で設置し、必要なタイミングで換気を行った。玩具は殺菌庫で消毒、壁に備え付けの扇風機は常に稼働し、空気の循環を意識した。室内の消毒作業は引き続きこまめに念入りに行った。
園内外研究・研修	研修はZOOMが主流な中、参加可能な研修には積極的に参加した。職員それぞれが必要な研修をバランスよく受講できるように努めた。また、研修後に研修報告書を作成しているが、他職員に研修内容を共有することができなかつたので、今後の課題としていきたい。9月1日の防災の日には、大震災を想定し、避難、停電発生を想定して過ごす、防災食での給食提供、お迎え訓練を実施。同日に外部委託での乳幼児応急手当講習会(乳幼児の心肺蘇生、けがの調べ方と手当)を実施し、緊急時の対応について職員全員で学ぶ機会を設けた。
情報について	各帳簿・書類を「保育」「運営」「管理」「給食」等に分け、それぞれナンバリングを行うことで、翌年度への移行をスムーズに行えるような書類整理を行った。また過去の書類についても各分野ごとに区分し、参照しやすい保管方法に改良した。個人情報については施錠ができる保管場所にて安全に保管できるよう保管場所の変更や整理・整頓を行った。
施設・設備	保育室の仕切りとしても使用していた棚を、転倒の心配がなく安全なものに買い替えた。収納も広くなり保育室を広く使えるようになったことで遊びの幅が広がり、かつ安全に保育できるようになった。プレイルームの園庭で水遊びができるように整備を行った。また農園でじゃがいもの収穫に成功。農園の運営についても改良を重ね、今後農園を活用した保育も視野に入れていきたい。
施設間交流連携	新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しつつ、連携園との交流を再開した。いづみ幼稚園所有の畑でのさつまいも堀り(1、2歳児クラスのみ)、いづみ幼稚園運動会参加(2歳児クラスのみ)については、去年度に引き続き開催することができた。それに加えて今年度は2歳児交流(いづみ幼稚園にて)を数回行うことができた。来年度は月に1回のペースで実施予定。エンゼルおおぞら保育園との交流も開始予定である。去年度より開始した連携園への引継ぎ(子どもたちの生活面など)を今年度も行い、子どもたちが新しい環境によりスムーズに慣れることができるよう配慮した。
家庭・地域との連帯	新型コロナウイルス感染症の対策として、登降園時のエントランス対応は継続した。限られた時間の中で、子どもの様子を保護者と共有することができるよう、話す時間を確保できるような人事配置に引き続き努めた。個人面談は9月に1度開催、その時には十分な時間を確保して行った。保護者への様々な伝達や連絡手段として、内容等により、電話・書面・メールを使い分けて行った。地域との交流はまだできていないが、今後秋祭りを地域に開放した行事にすべく前進しているところである。
情報発信	園便り、給食便りを温かみのある手書きで引き続き運用している。より保護者が読みたいと思ってくれるような内容を考えたり、読みやすいレイアウトにしたりと、工夫することができた。園への出入りを規制せざるを得ない状況の中で、少しでも園内の様子や子どもたちの様子がわかるようにブログや写真販売等の充実にも努めた。ブログはできる限りタイムリーな情報を発信するよう心がけたが、更新が途絶えたり遅くなってしまったりすることもあったので、来年度は定期的に更新していけるよう努力していきたい。
衛生管理について	一人一人が日々手洗い・掃除・調理室内の点検を行い清潔な状態を保った。CO2測定機を用いることで具体的な数値で判断し換気を行った。異物混入のヒヤリハットをうけ新たに調理帽の下につける髪の毛ネットを取り入れる等具体的な対策を行った。害虫駆除を2か月に1度実施しこまめな点検を行った。熱風乾燥庫、スチコン等調理器具の点検は業者に委託し、安全な状態で使用した。
調理内容について	旬の食材、行事食を取り入れた献立作成を行った。月1度の調理室会議で行事食の盛り付け等を話し合い各自の意見を取り入れて実際に行うことが出来た。切り方・茹で方等子どもの成長に合わせた調理方法の見直しを行ったので来年度から実行していく。献立の振り返りを月に一度行っているので来年度に反省を生かして献立作成、調理に反映していく。
食育について	新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら食育を実行した。子ども達の情報共有を保育士と行い、クラスに合った食育を行った。らびつと農園の運用を始め、来年度の見直しをもつことができたため反省を生かし、計画的に栽培を行っていく。より子どもの姿にそった食育を行う為、園としての食育の段取り、進め方を保育士と共に見直ししていく。
健康管理について	子ども達の身長・体重を栄養士が毎月確認し、改善が必要な子どもには保護者と相談しながら具体的な配慮を行った。給食の見た目にも配慮し、子ども達が食べやすい献立を意識し必要な栄養量を無理なく摂取できるよう配慮した。連絡帳を読み、家庭での食事状況も把握した上で保護者へのアドバイスをを行った。
事務管理について	一部の書類をナンバリングすることで、年度移行の作業の効率化に成功した。誰が見てもわかりやすい管理方法にすることで、定位置管理を徹底し、何かを探すという余計な作業をなくす運用を目指しました。